

平成30年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名 _____ 公明 _____

政務活動期間	平成30年7月11日～12日（2日間）
政務活動先	早稲田大学大隈記念講堂大講堂
政務活動参加者	五十嵐 信子（1名）
政務活動項目	○全国地方議会サミット2018 「議会のチカラで日本創生」
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

平成 30 年度 政務活動報告書

公明 五十嵐信子

政務活動期間 2018 年 7 月 11 日 (水) ～7 月 12 日 (木) (2 日間)

政務活動先 早稲田大学大隈記念講堂大講堂

政務活動参加者 五十嵐信子 (1 名)

政務活動項目 「全国地方議会サミット 2018

議会のチカラで日本創生」

政務活動項目に係る (目的・結果等の概要・所見)

1 日目 7 月 11 日 (水)

「基調講演」 13 : 00～13 : 30 「地方議会から日本を変える」
北川正恭 早稲田大学名誉教授

「特別講演」 13 : 30～14 : 20 「地方創生の展望」
野田聖子総務大臣欠席の為代理 安田事務次官

「講演・ディスカッション」 14 : 30～16 : 00 「真の地方創生とは何か」
片山善博 早稲田大学教授／地方創生と地方議会の役割
大西一史 熊本市長／震災復興と地方創生
北川正恭 早稲田大学名誉教授

「課題整理」 16：10～16：30 「地方創生時代に求められる議会力」

江藤俊昭 山梨学院大学教授

「パネルスカッション」 16：30～17：30 「議会力強化のための、議会事務局の変革」

小林宏子 東京都羽村市議会事務局長

清水克士 滋賀県大津市議会局次長

進行 千葉茂明 月刊「ガバナンス」編集長

2日目 7月12日（木）

「先進事例報告①」 9：30～11：20 「地方創生をリードする議会へ」

目黒章三郎 福島県会津若松市議会議長／住民との対話から課題解決へ

子籠敏人 東京都あきる野市議会議長／広報改革から展開する議会改革

ビアンキ・アンソニー 愛知県犬山市議会議長／自由討論で委員会提言へ

川上文浩 岐阜県可児市議会議長／委員会代表質問と政策サイクル

進行 廣瀬克哉 法政大学教授

「先進事例報告②」 11：30～12：30 「政策を実現する議会へ」

尾崎大介 東京都議会議長／条例マニフェストと議会改革

松本研 横浜市会議長／議会提案条例による政策実現

「講演」 13：15～13：50 {海外の議会制度から議会の多様性を考える}

中林美恵子 早稲田大学教授

「パネルディスカッション」 13：50～14：50 「多様性ある議会に向けた課題」

本間まさよ 東京都武蔵野市議会議長

岩永ひさか 東京都多摩市議会議長

白川静子 神奈川県茅ヶ崎市議会議長

南千晴 群馬県榛東村議会議長<ビデオメッセージ>

進行 中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「提言・総括」 15：00～16：00 「政策型選挙の実現に向けて」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 ・ 元三重県知事ほか

[所見]

少子高齢化、人口減少など深刻な課題が自治体に突き付けられている今、これからの議会のあり方について 先進的な議会で行われている報告や 議員はただの御用聞きだけではなく 政策で地域に貢献するための実践などの議論もあり大変興味深いサミットであった。

特に興味深く勉強になったのは 災害時の議会のあり方に 平時の時こそ議会としての議論すべきという事。

市と議会のそれぞれの役割を踏まえて災害情報の共有・協力・連携体制を整え災害対応に当たる必要性を重視し 滋賀県大津市議会では議会のBCP(業務継続計画)を策定しており とても重要なことだと感じた。

会津若松市議会では、住民自治の充実による住民福祉の向上のため 議会の取扱説明書(見て 知って 参加するための手引書)を作成し市民へ配布している。

議会条例が出来て10年目。

線香花火(一人一人)から打ち上げ花火(議会)へとかかげ、議員個々では行っているがこれを議会全体で政策を動かしていかななくてはならないとの話があった。

民意と政策を作る場として、市民との意見交換会の開催。

そこでの市民の意見を集約して整理するのが、広報広聴委員会の役目としている。

東京都あきる野市議会の広報誌は、フリーペーパーのように作成し 強烈なインパクトを与えている。

小さな改革から始め 今では56%の読者がいるとのこと。

文面も5行を超えると長い!とカット。学校ごとに、議会だよりに出たい人を公募し新規読者を獲得していった。またエリアごとにターゲットを決め 高齢者・消防団・子育てなど月ごとに変化させる工夫もしている。

東村山では、駅頭活動にも力を入れアピールしているという。

他の議会や事務局はどのように行われているのか知る機会が少ないのでこのような機会はとても刺激になり勉強になった。

平成30年度 政務活動報告書（2）

会派又は議員名 公明

政務活動期間	平成30年8月23日（1日間）
政務活動先	北海道大学公共政策大学院
政務活動参加者	五十嵐 信子（1名）
政務活動項目	○地方議員サマースクール テーマ「地方創生を検証する」 折り返し地点を過ぎた自らの自治体の総合戦略を見直し、 成果と課題を検証する。
政務活動項目に係る （目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

平成 30 年度 政務活動報告書

公明 五十嵐信子

政務活動期間 2018 年 8 月 23 日（木） （1 日間）

政務活動先 北海道大学公共政策大学院

政務活動参加者 五十嵐信子 （1 名）

政務活動項目 地方議員サマースクール

「地方創生を検証する」

折り返し地点を過ぎた自らの自治体の総合戦略を見直し成果と課題をけんしょうする。

政務活動項目に係る （目的・結果等の概要・所見）

8 月 23 日（木） 13：00～13：15 開講オリエンテーション

開講挨拶 北海道大学公共政策大学院院長 高野伸栄

写真撮影 （集合写真）

13:30～14：30 人口減少とどう向き合うか

石井吉春 北海道大学公共政策大学院 特任教授

14 : 45～15 : 45 地方創生に向けた具体の取り組み①
「持続可能なまちづくり～SDGs 未来都市へのアプローチ」
谷 一之 下川町長

16 : 00～17 : 00 地方創生に向けた具体の取り組み②
「過疎なまちづくり～東川町における地方創生の取り組み」
松岡 市郎 東川町長

17 : 00～17 : 15 1日コース修了証書授与
北海道大学公共政策大学院院長 高野 伸栄

[所見]

人口減少の要因分析をしながらのお話はとても考えさせられ、わが町で数字だけでは語る事が出来ない人口減少の要因をもっと深く考えていかななくてはならないこと、町民の一人一人の思いを吸い上げて課題解決とまちづくりに反映させていかなければならないことを学ぶ。

両町の前向きな発想、「マイナスをプラスへ」と。まちづくりに生かしていくという目標がある。両町長のお話に吸い込まれた。わが町でも町づくりに貢献できる人をいかに発掘するか、またシニアの才能をいかに活かせるかが課題であることも学ぶことができた。